

令和8年第2回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

3月11日(水) 午前10時～	1	舘花一仁	議員	(60分)
	2	赤坂勲	議員	(45分)
	3	成田哲男	議員	(30分)
	4	松村託磨	議員	(60分)
3月12日(木) 午前10時～	5	綱木裕一	議員	(45分)
	6	宮野和秀	議員	(30分)
	7	安保真希	議員	(30分)
	8	奈良明日香	議員	(30分)
	9	保田直美	議員	(30分)
	10	丸岡孝文	議員	(30分)

□質問時間割当表

10:00	11:00	11:10	11:55	13:00	13:30	13:40	14:40
3月11日 (水)	舘花一仁 (60分)	休憩 10分間	赤坂勲 (45分)	休憩	成田哲男 (30分)	休憩 10分間	松村託磨 (60分)

10:00	10:45	10:55	11:25	11:55	13:00	13:30	14:00	14:10	14:40
3月12日 (木)	綱木裕一 (45分)	休憩 10分間	宮野和秀 (30分)	安保真希 (30分)	休憩	奈良明日香 (30分)	保田直美 (30分)	休憩 10分間	丸岡孝文 (30分)

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
<p>1 今冬の雪害対策について</p> <p>(1) 市職員による高齢者住宅等の除排雪支援について（実績・課題・継続方針）</p> <p>(2) 除雪の「午前 7 時目途」運用と例外時の判断・周知について</p>					
<p>① 来冬以降も継続的な仕組みとするためには、対象要件の考え方、受付方法、出動判断の基準、実施体制、実績、通常業務への影響等を整理し、標準手順と安全管理を明確にする必要があると考える。そこで、今冬の実績と課題をどのような項目で整理しているのか。また、来冬以降の継続方針と運用の標準手順をどのように構築していく考えか伺う。</p> <p>併せて、令和 8 年度当初予算に高齢者等住宅除排雪支援事業 192 万 8,000 円が計上されているが、市職員の率先支援という緊急対応と、補助制度という平時の仕組みをどう役割分担させ、誰に・どの程度届いたのかを検証し、来季の改善に結び付ける考えか伺う。</p> <p>① 午前 7 時までを目途に除雪を終えるよう指導していると承知しているが、降雪の多い日は 7 時までに完了できない場合もある。生活路線の確保が不十分なまま作業を区切れれば、通勤・通学、救急搬送、通所サービス等に影響が及びかねない一方、作業延長には、作業員の安全確保、労務管理、契約条件等の整理が不可欠である。</p> <p>そこで、優先路線の区分をどのように定義しているのか、また降雪量・交通量・通学路・救急ルート等を踏まえ、作業継続・延長の判断基準をどのように整理し、現場に徹底しているのか伺う。</p> <p>また、当初予算で道路の維持管理費として相当額が計上されていることも踏まえ、降雪状況に応じ作業時間を柔軟に延長する運用を、委託体制や優先路線の設定と一体で整理し、住民へ説明できる形にする必要があると考えるが、「午前 7 時目途」の基準と例外時の判断及び住民への情報提供の在り方を併せて伺う。</p>					

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
(3)		狭あい路線・除雪困難箇所の把握と優先順位、事前伐採との連動について		<p>① 道幅が狭く除雪車が入れない箇所があり、自治会や個人が接続道路まで除雪して生活路線を確保している実態がある。狭あい路線は豪雪時に通学・救急・介護サービスに直結するリスクとなる。行政として、除雪困難箇所の所在・箇所数、代替路の有無、通学路や救急ルートとの関係、負担の偏り等をどの程度把握し、どのように優先順位を付けて対応していく考えか伺う。</p> <p>また、令和8年度当初予算に倒木等による停電・道路封鎖を防ぐ災害被害防止事前伐採事業として300万円が計上されている。雪害期は倒木・落雪・道路閉塞が連鎖しやすいことから、予防策の優先順位付けが重要であるが、どの区間を優先し、電力会社や県等と役割分担して、通行止め・停電の抑制等の成果指標をどのように設定し検証するか伺う。</p>	
2		鳥獣害対策について		<p>① 昨今の熊出没の早期化や集落周辺での事案発生を踏まえ、当市では熊対策として、ガバメントハンター2名を会計年度任用職員として雇用する方針が示されている。制度を新設する以上、従来の猟友会・有害鳥獣捕獲の実施隊との役割分担を明確にし、行政の責任として担う機能を定義することが重要である。</p> <p>ガバメントハンターに期待する役割を従来体制とどう切り分け、どの場面で出動・現場調整を担うのか、業務範囲と役割分担を伺う。</p>	
(1)		ガバメントハンター配置の目的と役割定義について		<p>① ガバメントハンターを含む捕獲体制の実効性は運用設計に左右されるが、出動基準（市街地・集落周辺・通学路等の区分）、夜間休日の連絡・出動体制、警察との役割分担、事故防止の安全管理を市はどのように整理しているか伺う。</p>	
(2)		夜間休日を含む指揮系統・出動基準・安全管理について		<p>① ガバメントハンターを含む捕獲体制の実効性は運用設計に左右されるが、出動基準（市街地・集落周辺・通学路等の区分）、夜間休日の連絡・出動体制、警察との役割分担、事故防止の安全管理を市はどのように整理しているか伺う。</p>	
(3)		重点区域の地図化と倒壊建物・空き家の再点検（雪害との連鎖）		<p>① 倒壊した小屋に熊が居座り、駆除された事案もあり、今冬の大雪で損傷した小屋や空き家が鳥獣の侵入拠点にならないか住民の不安は強い。そこで、通学路・集落周辺・出没多発地点を重点区域として地図化し、関係機関と共有する考えはあるか伺う。</p> <p>併せて、倒壊・損傷建物や空き家の再点検を行い、適正管理を促す仕組みをどのように構築するか伺う。</p>	

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3		(4) 有害鳥獣被害防止対策事業費の内訳と成果指標、県施策との連動について		① 有害鳥獣被害防止対策事業費として 3,942 万 9,000 円が計上されている。そこで、予算の内訳と、成果測定指標をどのように設定し、検証するのか伺う。 併せて、県の熊対策等のメニューのうち、当市が何を取り込み、どの課題解決に結びつけるのか、今年度中に実装する内容を具体的に伺う。	
		(1) 観光戦略部の設置と受入環境整備の推進体制について		① 観光戦略部の設置によって、従来の体制と比べて何をどう変え、どの課題を優先して解決していくのか。また、分掌事務ごとの担う機能と役割分担、意思決定の流れをどのように整理しているのか伺う。	
		(2) 受入体制の現状把握と事業者・市民を含めた底上げについて		① 宿泊・観光施設・飲食等における多言語対応、案内、決済、緊急時対応など、受入体制の現状を市としてはどの程度把握し、どの項目を課題として整理しているのか伺う。 併せて、行政や一部事業者だけでなく、簡単な対応フレーズの普及、多言語案内の標準化等の市民を含めた受入体制の底上げを進める考えがあるか伺う。	
		(3) 策定中の総合計画後期基本計画、取組方針 28 の目標を踏まえた誘客・周遊と交通導線について		① 当初予算では観光アクセス充実対策事業として 1,921 万 5,000 円が計上され、花輪線利用促進、乗り合いタクシー、自家用有償旅客運送等の取り組みが示されている。 外国人旅行者の誘客には、空港等の入口から当市までの移動、そして市内周遊まで、一体で分かりやすい導線づくりが鍵となる。空港・鉄道・二次交通を含めた導線の設計をどう進め、外国人目線の移動情報（多言語・決済・時刻・乗換）をどのように整備していくのか伺う。	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	1	質問者	館花 一仁	質問所要時間	60分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(4)		成果確認と次年度への反映 (数値目標の扱いとDMOの役割)について		①	<p>インバウンド対策強化事業 359万5,000円、DMO活動推進強化事業 1,853万4,000円など関連施策が示されている。来訪者数だけでなく、宿泊、滞在、域内消費、周遊、季節分散等の指標で成果を測り、改善につなげることが重要である。事業ごとに、どの項目を用いて成果を確認するのか。</p> <p>併せて、いつ、どのタイミングで点検・評価を行い、改善点を次年度の事業設計や予算配分にどのように反映させていく考えか伺う。</p> <p>また、DMOの活動については、情報発信に留まらず、商品造成、予約・販売、周遊促進、域内事業者の稼ぐ力の向上に結び付けることが肝要である。そこで、DMOが担う役割と、市・観光事業者等との役割分担をどのように整理し、具体的にどの成果をもって実効性を確認していくのか併せて伺う。</p>

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	45分
質問事項				質問要旨	
<p>1 ゼロカーボン政策の再点検と「真の環境貢献」について</p> <p>(1) EV導入啓発の見直しについて</p> <p>(2) まだ使える家電を買い替える補助金の効果検証と見直しについて</p>				<p>① 市は「小型EV運用によるEV導入啓発」を掲げ、2030年の実質排出ゼロを目指している。この計画の達成には「市民の行動変容が必要」と認識されているが、国の税制改正により4月以降「環境性能割」が廃止されることにより購入時の税制メリットが消失した。</p> <p>昨今の夏の暑さ、また地理的に極寒の本市において、冷暖房使用による航続距離の急減、雪道・悪路での走破性への不安は拭えない。本計画の市民の認知度（現状値47.1%）を、無理なEV啓発で高めることは困難である。</p> <p>環境性能割の廃止により経済的メリットが消え、さらに雪国特有の性能不安がある中で、EV導入を啓発することが、市の掲げる市民の満足度向上（ウェルビーイング）に本当につながるのか。数字上の「2030年ゼロ」を追うあまり、市民に不便や不安を強いていないか。</p> <p>世界的なハイブリッド回帰やEVに注力した自動車メーカーの業績が悪化していることなど、実経済の動向を踏まえ、国に先駆けての達成目標を見直すべきと考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>② 新年度予算では蛍光灯の製造停止に伴うLED化への補助や、高齢者の命を守るエアコン補助など、実社会の動向や福祉に根ざした合理的な施策が進められる。しかし、一方で家電買い換え補助については、第7次総合計画後期基本計画に掲げる「3R意識の向上」に矛盾しているのではないか。</p> <p>また、本市が目指す「市域内排出ゼロ」という数値目標を達成するために、製造段階の環境負荷を他地域に押し付けている現状を、環境政策として誠実であると言えるのか。</p> <p>まだ十分に使える家電を新品への買い換え補助として予算を投じるのであれば、住宅の断熱改修等の方がウェルビーイングにつながるのではないかと考えるが、市の見解を伺う。</p>	

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
<p>2 豪雪の教訓に学ぶ「受援マネジメント」への転換について</p> <p>(1) 除雪支援隊の効果検証と課題について</p> <p>(2) 共助の限界と費用弁償制度の創設について</p> <p>(3) 災害救助法の適用時の受援体制構築について</p>				<p>① 今冬は災害救助法が適用される豪雪の中で、市職員の除雪支援隊は、「市職員は市民を見捨てない」メッセージを強力に発信することで、除雪で疲弊した市民の心の支えになったと評価している。一方で、いつ除排雪が来るかわからない、情報が足りないことにより不安を増大させてしまった面もあるのではないかと考えるが、支援隊の効果検証と今後の課題を伺う。</p> <p>除排雪の状況や支援隊の活動をもっと効果的に周知できていれば、混乱を収めることも、精神的支援の効果も高められたのではないかと考えるが、支援隊の効果検証と今後の課題を伺う。</p> <p>① 自治会加入率が 74.9%まで低下し「共助」が弱体化する中、公的な除雪が行き届かない市道等について、重機を持つ市民による善意の除雪に頼る現状を限界と認め、燃料代や機材摩耗に対する費用弁償や協力金を予算化し、行政が責任を持って支援を補完する制度を新設すべきではないかと考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>① 豪雪による災害救助法の適用は初めてのことでないと思われるが、同時期に国民スポーツ大会の準備、衆議院議員選挙の事務、確定申告相談といった重要公務が重なり、市職員の負担は増大していたものと見受けられる。</p> <p>また、指揮監督者である市長や幹部職員自らがプレーヤーとして現場作業に従事することは、市全体の被害状況を俯瞰し、他自治体からの重機や人員を差配するマネジメント機能を低下させたのではないかと考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>災害救助法適用という強力な法的根拠がある中で、職員を現場作業に動員する判断よりも、雪の少ない岩手県等の近隣自治体から重機やオペレーターを迅速に確保する受援体制の構築にリソースを集中すべきだったと考えるが、市の見解を伺う。</p>	

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	2	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	45 分	
質 問 事 項			質 問 要 旨			
3		<p>公共施設再編の前倒しと冬季コストの適正化について</p> <p>(1) 計画と実績に基づく公共施設等総合管理計画の前倒し実施について</p> <p>(2) 公共施設の冬季間休業の検討について</p> <p>(3) 公共施設使用料の見直しについて</p>		<p>① 本市では令和 12 年度までの出生数累計目標を 904 人としているが、直近の令和 6 年・令和 7 年の出生数が 60 人台であれば、将来的に学校教育系施設（延床面積の 31.7%）や保育施設の過剰供給は避けられない。令和 6 年出生の子供が小学校に入学する時期までに、学校規模の適正化は喫緊の課題である。施設等の集約を大幅に前倒しする決断が必要と考えるが、見解を伺う。</p> <p>① 一部の社会教育施設で定休日の追加を検討されているが、週 1 日、年間 50 日程度の休業であればコストカットの効果は限定的と考える。同じ 50 日程度の休業であれば、暖房・除雪の維持費が嵩む 1 月から 3 月に絞った冬季休業・集約により、大胆なコストカットを検討すべきではないか。休業期間中であっても、資料のアーカイブ化や映像資料の作成により教育活動等への対応が可能と考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>① 厳しい財政状況の中、低利用公共施設については集約を検討し、あわせて公共施設による市民のウェルビーイング向上のためには維持管理にかかる経費の受益者負担も容認してもらう必要があると考える。現在、市民の非営利活動などの場合には無料または著しく安価に利用できる施設が多いが、使用料の見直しを検討する考えはないか伺う。</p>		

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30 分
質問事項			質問要旨		
1		子ども・子育て支援金制度について	① 令和 8 年 4 月から子ども・子育て支援金制度が開始されるが、支援金が充てられる 6 つの事業について伺う。また、医療保険に上乘せされ、天引きとなるのは 5 月からと伺っているが、給付の時期などに影響は出ないか伺う。 ② 支援金額は医療保険制度の加入者全体の平均から、令和 8 年度からは 250 円、令和 10 年度は 450 円と試算されていると伺っている。金額は定期的に見直されることとなっているのか。また、その期間はどれくらいか伺う。		
2		安定した行政運営体制について	① 1 月に県と県北の市町村との意見交換の場があったと伺っている。その中で県は地域振興局の集約化を検討しているとのことだが、それに対する各市町村の意見はどうであったのか伺う。 ② 業務集約となった場合、本市としてどのような対応が必要となると考えているのか伺う。		
3		不登校やいじめ問題について	① 1 月に開かれた県の対策審議会で、不登校対応やいじめ問題にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが対応するほかに、スクールロイヤー制度導入の提言があったようだが、どのように考えるか伺う。		
4		地域医療ビジョンについて	① 今年度から 2 年間で策定する医療ビジョンだが、医療機関へのアンケート実施後、12 月には住民説明会が開催された。市長は、厳しい状況の中、できないことを引きずらず現状を受け入れ、未来に向かうことが求められると述べられた。医療ビジョン策定に向けた現在の状況について伺う。 ② 本市の医療環境について市民の期待とのギャップを埋める必要があるとの認識のようだが、医療ビジョン策定において今後の対応を伺う。		
5		先人顕彰館の今後について	① 先人顕彰館の今後の在り方について、閉館を含めて検討する計画のようだが、指定管理者との協議は行われたのか。また、現状での方向性について伺う。		

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	松村 託磨	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1		出生数目標の進捗管理と効果検証体制について		<p>① 現在策定中の総合計画後期基本計画では、令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間で累計出生数 904 人（年平均約 90 人）を目標としているが、令和 3 年度から令和 6 年度までの年度別の実績と、令和 7 年度の見込みについて伺う。</p> <p>また、累計目標に対し、年度別の目標値が設定されていないように見受けられるが、その理由は何か。今後、年度別目標を設定する見通しはあるか、併せて伺う。</p>	
2		若者回帰施策と関係人口について		<p>① 直近 3 年間の新規定住者 150 人以上のうち、約 60%が 30 代以下と伺っている。20 代から 30 代の転入者数について、直近 5 年間の推移と、その人数を単独の成果指標（K P I）として設定していない理由、また、今後設定する考えはあるか伺う。</p> <p>② 本市における関係人口の定義と、現在の把握・測定方法を伺う。なお、鹿角家の登録者数は「量」の 1 つの指標になり得るが、それだけで十分かどうか併せて伺う。</p> <p>また、鹿角家 U29、移住促進、二地域居住などの各施策について、令和 8 年度末時点でどのような状態になれば「成果あり」と判断するのか、その具体的な定義と基準を伺う。</p>	
3		スポットワーク活用支援事業について		<p>① 鹿角市の産業である観光・農業・除雪等は繁忙期が異なる季節産業であり、通年型の労働力確保が困難な構造的課題がある。</p> <p>市では、後期基本計画において新たにスポットワーク活用支援事業を開始するようだが、季節ごと・業種ごとの人手不足について、どの時期に、どの業種で、どれくらい困っているのか、市の現状把握と課題認識を伺う。</p> <p>② スポットワーク活用支援事業により、どこまでの課題解決を想定しているのか、考えを伺う。</p> <p>③ 将来的にスポットワークを超え、業種間で人材が循環する仕組みを市として支援・設計していく考えはあるか。</p>	

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	松村 託磨	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4		公共施設削減の判断基準について		<p>① 公共施設等総合管理計画改訂案によると、市は令和 12 年度までに延床面積の約 11.6%削減を目指している。施設の廃止・統合を判断する際、利用率・築年数・維持管理等の数値的な基準があれば、具体的に示されたい。</p> <p>また、個別施設の評価結果について、市民への公表はいつ頃を予定しているか。</p>	
5		DX推進について		<p>① 令和 8 年 2 月より生成AI「Q o m m o n s A I」の運用を開始したと承知しているが、実施計画・行政経営基本方針等の計画文書には記載が見当たらない。「Q o m m o n s A I」を選定した理由について、コスト、セキュリティ、機能、他ツールとの比較など具体的に示されたい。</p> <p>② 現在、どの部署で、どのような業務に活用されているか。また、全職員のうち利用対象者数と実際の利用者数（利用率）について伺う。</p> <p>③ 利用ガイドラインには、個人情報の取り扱い、著作権、誤情報リスク、ログ管理、禁止事項などが記載されているものと思われるが、どのような規定を設けているのか主な内容について伺う。</p> <p>④ 「DXを推進できる人材」について、本市における定義を伺う。また、全職員に求める基礎レベルと、推進役として期待する専門レベルそれぞれの定義について、どのような能力・スキルとして設定しているか。</p> <p>⑤ 基礎・専門それぞれの研修カリキュラムについて、予定されている内容と実施スケジュールを伺う。特に、生成AIの活用を含むデジタルリテラシー研修について、対象者・頻度・開催形式など具体的な計画があれば併せて伺う。</p> <p>⑥ DXに関する人材育成の成果指標について、評価方法及び令和 8 年度末の目標値について伺う。</p>	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	松村 託磨	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
6		ふるさと納税について		<p>① 鹿角市中期財政見通しでは、令和8年度以降の「ふるさと鹿角応援基金」は3億円程度で推移するものと見込まれている。 令和7年度のふるさと納税寄附総額について、現時点での実績額と、年度見込み額を伺う。</p> <p>② 令和8年度以降の推移を3億円程度とした根拠は何か。あわせて、市のどのような取り組みがどれだけ寄附増に貢献したか、施策の効果を分析しているのであれば、その結果について伺う。</p> <p>③ ふるさと納税の進捗管理・改善・意思決定を行う会議体と、最終的な責任者は誰であるか伺う。</p> <p>④ 返礼品の見直し・追加は年に何回行っているか。また、その判断は誰がどのような基準で行っているか。</p> <p>⑤ 令和8年度の寄附総額が3億円に満たない場合、どの会議でどのように検証し、誰が改善の責任を負うのか。そのような是正メカニズムはあらかじめ設計されているか。</p> <p>⑥ 市は現在、同一の寄附者が翌年以降も継続して寄附する割合、いわゆるリピーター率を把握しているか。把握していない場合、今後測定する予定はあるか。</p> <p>⑦ リピーターを増やすために、市ではどのような取り組みを行っているか。</p> <p>⑧ 現在の寄附受領書・お礼状の具体的な内容はどのようなものか。寄附者の記憶に残るよう「ファンレター」としての要素を加えて再設計する考えはあるか。 また、お礼状を通じて「鹿角家」登録や、移住・交流イベントへの参加を案内するなど、関係人口拡大の接続設計は図られているか。</p>	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分
質問事項			質問要旨		
1	持続可能な除雪体制の構築について	(1) 除雪業者に対する保証の拡充について	①	<p>今冬は青森市をはじめ、市道の除雪が間に合わないことによる市民への影響が連日大きく取り沙汰された。</p> <p>鹿角市と除雪業者の契約は、出動回数に対して報酬が支払われ、出動回数が少ない年は最低保証という形で報酬を別途支払っている。しかし、この最低保証額が低く、経営的見通しが立てづらい。特に出動回数が少ない年は、除雪業者も非常に苦しい思いをしていると聞く。</p> <p>除雪作業の滞りは、市民生活や経済に直結している。今後は、除雪の合理化・効率化にも取り組みつつ、この最低保証額も手厚くする必要があると考えるが、市の考えを伺う。</p>	
	(2) 除雪業者へのクレームとその対処について	①	<p>今年は特に異常な積雪量により、当局へも除雪の問い合わせ等が相次いだことと思われる。</p> <p>また、非常に残念なことではあるが、現場の除雪オペレーターの方に対する心ない言葉や、度を越えた行動をとる市民の方もおり、現場のオペレーションに影響を及ぼしたとも伺っている。</p> <p>こうしたことは毎年のように起こっているとも聞き及んでいるが、度を越えたカスタマーハラスメントに対しては警察と連携して毅然とした態度で臨み、市職員、除雪オペレーターを一層強力に守っていくべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>		
2	公共施設の老朽化と方向性について	(1) 花輪スキー場設備の老朽化について	①	<p>現在稼働している花輪スキー場のリフトも竣工から30年を超え、老朽化が著しく進んでいる。</p> <p>また、搬器の格納庫の外壁の劣化、頻繁な倒木の発生によるゲレンデの封鎖など、対応が追い付いていない状況であるが、今後こういったスケジュールでメンテナンスなどを行っていくのか、市の考えを伺う。</p>	
	(2) 花輪スキー場における人口減少に合わせた運営体制について	①	<p>人口減少に伴い、競技人口も減り、スキー場の運営スタッフも人手不足の中、適切な規模で運営を行っていく必要があると考えるが、市の考えを伺う。</p>		

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
		(3) 鹿角市民プールの老朽化と方向性について	① 鹿角市民プールは、昨年は市内外から約 8,000 人の利用客が訪れ、夏休みになると鹿角中の子供たちが集まり、その後花輪町で遊んで帰るという子育て世代にとっても人気の施設であると感じている。現在は、流れるプールの送水ポンプ 3 基中 2 基が故障し、残る 1 基もぎりぎりの状態で稼働しているとのことだったが、鹿角市民プールを今後も存続させていく方針なのか、考えを伺う。		
3		雪害復旧対応の今後について			
		(1) 倒壊したビニールハウスの把握について	① 今冬の異常な積雪によって数多くの農業施設が被災したが、農業共済に加入しているビニールハウスの被災状況は比較的把握しやすいが、共済に加入できない例えば倉庫としてのビニールハウスなどの被災状況は把握されているか、状況を伺う。		
		(2) 被災された方々への財政援助について	① 被災された方々の復旧費用の負担を軽減するべく、激甚災害指定への申請を検討するべきと考えるが、県や他自治体との連携等、現在の状況を伺う。		
4		熊対策について			
		(1) 空き家などによる熊の冬眠場所への影響について	① 今年 2 月、毛馬内地区において雪害で倒壊した小屋の解体作業中に熊が建物内から発見された。住宅地で熊が冬眠する危機的状況とを感じるが、今後の対応について市の考えを伺う。		
		(2) 緊急ツキノワグマ誘引樹木伐採事業について	① この補助金の交付対象要件について、昨年までは、樹木の半径 200 メートル以内におおむね 10 件以上の人家がある住宅地周辺にある樹木の伐採であった。来年度においても、この要件で事業を実施するのか伺う。		
		(3) 箱罾の設置オペレーションについて	① 昨年、自衛隊員より駆除のサポートをしていただいた際、市職員から箱罾のオペレーションについて学びがあったと伺った。それを踏まえ、今年はどうのようなオペレーションを想定しているのか、市の考えを伺う。		

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	5	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分
質問事項			質問要旨		
5		公共事業の包括的民間委託制度の検討について		① 大館市では、来年度からインフラの維持管理業務における包括的民間委託制度が本格的にスタートするようである。この制度は、当局の事務負担軽減はもとより民間事業者の創意工夫や、それによつての技術向上、住民参加型インフラ維持といった、これからの時代に合った制度のように見える。その一方で、懸念事項などもあるかと思うが、本市ではこの制度を検討しているのか、状況を伺う。	
6		上沼風力発電計画について		① 現在、計画されている上沼の風力発電計画について、市は直接的に当事者ではないことは承知している。 しかし、建設候補地の一部は、世界遺産である大湯ストーンサークルからの景観問題が懸念され、市民からも心配の声が上がっている。 再生可能エネルギーの推進と世界遺産を有する本市としては、現在どのような対応を取られているのか、状況を伺う。	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1		地球温暖化対策実行計画について	① 2030年ゼロ・カーボンシティを目指し取り組んでいる地球温暖化対策実行計画について、今年度の事業実施状況と、その成果の見込みを伺う。 また、残り4年だが、現時点での進捗状況も伺う。さらに、来年度はどのような事業が計画され、進捗が図られるのか伺う。		
2		株式会社かづのパワーについて	① 会社設立当初は、電気料金高騰などのあおりを受け経営が危ぶまれた時期もあった。現在の経営状況と顧客数の推移、また、今のところ安定している電気料金だが、その要因と今後の経営計画について伺う。さらに、地域電力であるかづのパワーが、小売り以外で果たせる役割とその状況について伺う。		
3		再造林について	① 伐って使って植えて育てる。これは森林、林の循環であるが、伐っても植えない状態が7年ほど続いている。このままでは、30～50年後は、山に製品木がなくなる。森がなくなる。伐っても植えなければただのやぶ林で、薪にもならない。再造林をどのような位置づけで考えているか伺う。		
4		耕作放棄地について	① 耕作放棄地はそばの里づくり等で若干減少しているが、雑草、カヤ、雑木等が繁茂し再生不可能な状態である。地主との関係を保ちつつ、また、農業委員会とも協議をしながら、スギやナラ等の製品木の植林を進め、森・林づくりを推進できないか伺う。		
5		認知症施策について	① 認知症の方に対する施策の取り組み状況、また、直近5年間の推移について伺う。		

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
1		今冬の除雪体制について		<p>① 異例ともいえる降雪状況の中で、市としてどの段階で災害レベルの対応が必要と判断したのか。その認識の時期、市内の協議体制、また、災害レベルの対応が必要かどうかを判断するにあたり、鹿角市における積雪量や交通障害の件数など具体的な数値としての基準は設けているかを伺う。</p> <p>② 2月3日に災害救助法が適用されたが、1月中旬の段階で、市民の間では既に「災害級ではないか」という声が上がっていた。 市としての認識と市民の体感との間にズレはなかったのか、その検証について伺う。</p>	
2		非常時の堆雪場所について		<p>① 今冬は排雪が十分に行き届かない地域も多く、特に住宅地では、除雪した雪を置く場所がなく住民が苦慮していた。今後は、あらかじめ非常時における臨時的な堆雪場候補地を地域単位で整理し、平時から合意形成を図っておくことが必要ではないか。 市として、排雪の優先順位や判断基準はどのように定めているのか。また、今後、自治会や防災士を交えた地域ごとの排雪計画の見直しなどにより、非常時に迅速に運用できる堆雪場等の確保を検討すべきと考えるが、市の見解を伺う。</p>	
3		公共交通について		<p>① 今冬は断続的な大雪により、列車やバスの運休・遅延が相次いだ。今回の大雪において、運行情報の周知、通学者への代替交通の確保など、公共交通維持のためにどのような対策を講じたのか伺う。</p>	
		(1) 運行状況の周知方法と通学者への代替交通確保について		<p>① 今後、デマンド交通を設計する段階において、市民のみならず来訪者も利用しやすい仕組みの導入について、検討する考えはないか。 利用登録制や数日前の事前予約などを省き、電話やアプリで簡単に予約できるような設計とすることで、移動の利便性向上だけでなく、車を持たない旅行者や住民の家族、また二地域居住者などの利用者増による収益確保にもつながる可能性があると考え。 生活交通としての役割に加え、観光や関係人口の視点を取り入れ、既存の交通機関との役割分担を踏まえつつ設計することについて、市の見解を伺う。</p>	
		(2) デマンド交通の設計について		<p>① 今後、デマンド交通を設計する段階において、市民のみならず来訪者も利用しやすい仕組みの導入について、検討する考えはないか。 利用登録制や数日前の事前予約などを省き、電話やアプリで簡単に予約できるような設計とすることで、移動の利便性向上だけでなく、車を持たない旅行者や住民の家族、また二地域居住者などの利用者増による収益確保にもつながる可能性があると考え。 生活交通としての役割に加え、観光や関係人口の視点を取り入れ、既存の交通機関との役割分担を踏まえつつ設計することについて、市の見解を伺う。</p>	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
4		小型除雪機の購入に対する補助制度創設について		① 他自治体では小型除雪機の購入に対する補助制度を設け、地域単位や個人による除雪活動を支援する取り組みを進めている。市として、小型除雪機の購入に対する補助制度の創設や、自治会単位での共同購入支援などについて検討する考えはないか伺う。	
5		自治会のデジタル推進について (1) 電子回覧板の導入について		① 他自治体では電子回覧板を活用し、リアルタイムでの情報伝達や、防災情報の迅速な共有を行っている。本市においても、自治体専用の電子回覧板アプリの導入や、デジタルツールを活用した地域単位の情報伝達の強化について、検討する考えはないか伺う。	
6		地域ポイントの導入検討について (1) 非代替性トークン（NFT）を利用した地域活性化の提案		<p>① 地方においては年間を通じてマンパワーに依存する場面が多くある。地域活動や住民同士の共助の取り組みなどに参加した方へ、その出来高として、地域限定で利用可能なポイントを付与する仕組みを検討できないか。</p> <p>他自治体では非代替性トークン、いわゆるNFTなどのデジタル技術を活用し、デジタル住民票の発行のほか、地域への参加履歴や地域貢献度を可視化する取り組みも進められている。また、近年、分散型自律組織（DAO）と地域ポイントを組み合わせた地域活性化の取り組みが各地で注目されている。</p> <p>本市においても、今後増やしていくべき二地域居住者や関係人口との接点づくりにも活用できる可能性があると考えます。</p> <p>こうした新たな仕組みづくりについて、市として調査・研究を進める考えはないか伺う。</p>	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	奈良明日香	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1		鹿角の医療の現状について (1) 通院補助支援について		① 医療集約化に伴い、市民は大館市立総合病院等への遠距離通院を余儀なくされているが、現在、一般通院に対する補助支援などは行われていない。昨年の6月定例会では「医療ビジョンの策定の際に検討する」との答弁があったが、その後の進捗はいかがか。 また、ニーズの把握が必要との見解もあったが、現在、市に届いている市民の実情の声や、ニーズ把握のために実施している具体的な調査方法について伺う。	
		(2) 妊産婦に向けた通院補助支援について		① 北秋田市では、分娩機能集約に伴い、タクシー券による通院補助のほか、入院時のきょうだい預かり支援や待機宿泊費支援など手厚い施策が講じられている。本市においても、安心できる出産・子育て環境を整えるため、同様の支援を導入できないか伺う。	
2		若者議会の設置と運営方針について		① 市長は、昨年6月定例会の所信表明において「少年議会」の設置を掲げていたが、本定例会の施政方針並びに今回示された第7次総合計画後期基本計画では「若者議会」と表現している。対象年齢が広がることによるメリット・デメリットがあると考えますが、少年議会から若者議会へと名称や対象を変更した意図と、現状どのような運営方針で準備を進めるのか、考えを伺う。	
3		教育について (1) 給食費無償化の範囲と財源について		① 昨年6月の市長の所信表明では「小中学校の給食費無償化を検討」としていたが、今回示された方針では、小学校が完全無償化であるのに対し、中学校は一部支援にとどまっている。ゆくゆくは中学校も全額無償化を目指すという認識で相違ないのか。また、仮に中学校の給食費を全額無償とした場合、財源としてどれほどの予算規模が必要になるのか、現時点での概算額を伺う。	
		(2) デジタル教科書導入の背景と教育的視点について		① 国においてデジタル教科書の導入が進められる一方、海外では学力低下の懸念からノルウェーなどのように紙の教科書へ回帰する動きも見られる。このような議論がある中で、本市がデジタル教科書のライセンス料を予算に組み込んだ具体的な背景と、ICT教育におけるメリット・デメリットをどのように分析されているか伺う。	

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	奈良明日香	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4		J R 花輪線の維持活性化と企業誘致について		① 「稼げるまちづくり」や「若者から選ばれるまちづくり」において企業誘致は極めて重要であるが、昨年の決算特別委員会でも、企業の懸念材料として交通の不便さが指摘されていた。 また、公共交通機関の維持・拡充は、高齢化が進む市民の足としても必要不可欠である。今後、J R 花輪線の利用促進や利便性向上に対して市としてどのように向き合い、J R 側と協議を進めていくのか、考えを伺う。	
5		令和 7 年度の実情を踏まえた熊対策について		① 春を迎え、熊の出没が懸念される時期となったが、現段階での対策方針を伺う。特に、令和 7 年度の深刻な被害状況を踏まえ、従来通りの対策に加え、令和 8 年度新たに講じる具体的な施策や防除計画について伺う。	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	保田 直美	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1	鹿角市の脱炭素関連事業の現状と今後の方向性について (1) 本市の脱炭素政策における国際潮流の変化に対する認識について	<p>① 本年1月に米国で開かれた技術展示会（CES）においてEV（電気自動車）の出展が大幅に減少し、展示の中心が環境技術からAI・ソフトウェア関連へと急速に移行していると読売新聞で報じられている。欧州においても環境規制の見直しが進むなど、「脱炭素」をめぐる国際潮流に変化が見られるが、こうした動きを本市としてどのように情報収集を行い、本市の施策への影響をどのように分析しているのか伺う。</p> <p>② 本市のカーボンニュートラル推進事業をはじめとするゼロカーボン計画は、脱炭素をめぐる政策・技術・市場動向を定期的に把握し、計画や事業の見直しに反映させるための制度上の仕組みは設けられているか伺う。 また、本市としても今後多くの困難に直面した場合、ゼロカーボン計画の「現実的な修正」を行うべきと考えるが、今後の計画の再点検や検討状況についても併せて伺う。</p> <p>③ 近年、脱炭素関連施策が求められている「人権配慮義務（人権デューデリジェンス）」などの視点で脱炭素を目指す事業又は事業者が人権侵害を起こしていないかの確認を行っているか伺う。</p>			
	(2) 本市のゼロカーボン施策の現状と方向性について	<p>① 仮に本市が2030年にカーボンニュートラルを達成した場合、その達成が地域産業の活性化や雇用創出と言った地方創生につながっていくのか、これまでの取り組みの成果と課題をどのように総括しているのか。特に費用対効果、市民・事業者の負担、地域経済への波及効果の観点からどのように評価し、今後の方向性を考えているか、現状を踏まえた上で市の見解を伺う。</p>			
2	再生可能エネルギーの導入促進における風力発電設備設置について (1) 脱炭素政策が生む地域経済の衰退について	<p>① 再生可能エネルギーの導入について本市は、風力発電設備設置を予定しているが、導入ポテンシャルと地域負担のバランスをどのように評価しているのか伺う。</p>			

令和 8 年第 2 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3		本市のキャリア教育の実績と未来に向けた確かな取り組みについて		<p>② この風力発電設備の再エネ導入が地域経済に与える影響を総合的に評価し、必要に応じて施策の軌道修正を行う考えがあるのか伺う。</p> <p>③ 再エネ事業における風力発電設備設置は、政策効果の検証制度や、事業が想定通りの成果を上げなかった場合の修正メカニズムが十分に整備されていないことが問われているが、本市として、事業の妥当性を継続的に検証する仕組みを今後どのように構築するのか伺う。</p> <p>① 本市の小学校・中学校のキャリア教育において、これまでどのような工夫された取り組みがあり、それに対して市の支援はどのようなものだったのか伺う。</p> <p>② 本市のキャリア教育は、将来にわたって社会に貢献し、働くための知識や態度であり、これが土台となって、その上に専門性をもった職業教育やアントレプレナーシップ教育があると認識している。この大切な土台となる働くための態度面、真面目さや礼儀、けじめ、人間関係の調和づくりは、キャリア教育がねらう欠かせない観点であると考え。例えば、学校生活の中のあいさつや掃除、服装、言葉遣いなどにも表れてくると思われるが、子供たちの良い変容、成果はどのような姿で表れているのか。また、今後さらに育てたい課題も併せて伺う。</p> <p>③ 義務教育 9 年間においては、特に家族や身近な人の働く姿は生きたキャリア教育である。家族の病気や障害から医療の仕事や介護の仕事に使命を見出す人も少なくない。美味しいお菓子を作ってくれるお店がなくなりそうになると自分が継いでみたいと思うかもしれない。こうした子供目線で身近な地元企業と接点を持つことは重要であると考え、どのように行われているか伺う。</p>	

令和8年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
1		熊の出没対策について		<p>① 誘因樹木の伐採補助要件について、範囲外であっても住民が通学・通勤・散歩などで日常的に利用する道路周辺で熊の餌場となっているなどの樹木についても対象にするなど、要件の緩和はできないか伺う。</p> <p>② 市が行う緩衝帯の整備や管理強化ゾーンの規模と設定場所や管理について伺う。</p> <p>③ 県のツキノワグマ管理計画については、記載はないものの、最終的に熊を森へ返すことが根底にあると思われ、そのために森林の保全管理が必要であると考え。市として、森林保護保全管理の考えと取り組み方について伺う。</p>	
2		除雪計画と豪雪災害対応について		<p>① 除雪計画作業におけるマンパワー不足の影響と市民対応について伺う。</p> <p>② 2月3日に適用となった災害救助法での復旧対応について伺う。</p> <p>③ 「間口除雪」及び「高齢者等住宅除排雪支援事業」への影響について伺う。</p> <p>④ 次年度以降の除雪計画の策定について伺う。</p>	
3		鹿角におけるスキー授業について		<p>① 今年度、花輪小中学校でスキー授業が実施されなかった件について、決定までの経緯などを伺う。</p> <p>② スキー授業が実施されなかったことに対する、児童生徒、特に小学生の受け止めについて伺う。</p> <p>③ 鹿角市の小中学校でスキー授業が始まったのはいつ頃からなのか、その歴史について伺う。また、鹿角のスキー文化と地域資源を踏まえ、次年度以降のスキー授業継続への考えについて伺う。</p>	